

助成事業実施報告書

団体名 特定非営利活動法人 子どもセンター「パオ」

代表者・役職名 氏名 理事長 多田 元



▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

AED設置とウィークリーマンションでの一人暮らし体験事業

2. 実施団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。)

当法人は、2006年に設立し、子どものシェルターを運営する中で、虐待により心身共に傷ついた少女が社会に出る準備をその子のペースでゆっくりできる居場所の必要性を感じて2011年に働くことを前提としない自立援助ホーム「ぴあかもみーる」を開設し運営しています。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

心停止の際の応急処置は「秒」を争うといわれており、一刻も早く救命処置を始めないと、助かる可能性がどんどん低下してしまいます。そこで、利用者の心肺停止に備えて、AEDの設置し、これを正しく使用することができるように、スタッフがAED使用方法の研修を受講します。

これまで当施設より、旅立ち一人暮らしをしたものの、上手いかず、すぐに戻ってきてしまったり、行き先が分からなくなってしまう事例がありました。当施設を出ていきなり一人暮らしをするのは、利用者にとって大きな負担です。そこで、その準備として、ウィークリーマンションを使用した一人暮らし体験を行うことでスムーズな旅立ち支援が可能となります。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

AEDの設置

AED、保護ケースを購入し、施設にAEDを設置します。又、スタッフがAEDの正しい使用方法を習得するために、AEDの使用方法についての研修を受講します。

ウィークリーマンションでの一人暮らし体験

自立が近い利用者について、ウィークリーマンションを借りて、一人暮らしの体験をさせます。体験中は、スタッフや担当弁護士がウィークリーマンションに通って様子を見て、利用者は必要な援助を受けることができます。この体験を通じて、一人暮らしのシュミレーションを行い、問題点を検討するなどして、最終的な旅立ちへと繋がります。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生じた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

AEDを購入し施設に設置しました。スタッフがAEDの使用方法についての講習会を受講しました。もしもの場合に子どもたちの命を救う体制を整えることができ、スタッフも利用者も安心して生活することができます。ウイークリーマンションの利用については、1名が1ヶ月間の一人暮らし体験を行いました。実際に一人暮らしを体験してみると、今後の課題を把握することができ、本人は1ヶ月間過ごしたことで自立への自信をつけることができました。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

ウイークリーマンション利用による一人暮らし体験は、当施設を利用している心の傷ついた少女たちが自立していく上で必要となる段階的なサポートを実践することができ、非常に有効な手段ですので、今後も継続的に行っていきたいと考えています。

7. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動状況の写真などを参考資料として提供してください。

参考資料あり ・ 特になし

